

授業科目

児童福祉論Ⅱ

【担当教員名】 塩見義彦		対象学年	2	対象学科	社会
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【＜概要＞又は＜一般目標：GIO＞】 日本経済が停滞して久しいが、なお、全国的な都市化現象等地域社会の変貌は著しく、そこに暮らす子ども達の生活ストレスを背景とした様々な問題行動が浮き彫りになっている。児童、子育て環境、社会のありよう全体を視野に入れ、そこで生み出される子ども自身の問題と多様な家族形態の中で抱える児童家庭問題の本質を考えてみたい。その上で、現行の児童福祉諸制度、児童福祉の理念、さらには政策・制度の現状と問題点について論じ少子高齢化が一段と進む中、子どものすこやかな成長を支える児童福祉、児童家庭福祉はいかにあるべきかを考える。児童福祉論Ⅰの継続である。					
【＜学習目標＞又は＜行動目標：SBO＞】 Ⅰ 児童福祉の歴史と基礎概念について学習する。 Ⅱ 現代社会と児童福祉について学ぶ。 Ⅲ 子供を健やかに生み育てる環境について考える。 Ⅳ 児童福祉の法と児童福祉施策、実施体制について学ぶ。 Ⅴ 児童福祉にかかわる専門機関、専門職種について学習する。					
回数	授業計画又は学習の主題(変更の可能性あり)				SBO 番号 学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	児童福祉施策Ⅰ	児童福祉諸施策を体系的に学ぶ			講義中心
2	児童福祉施策Ⅱ	同上			
3	児童福祉施策Ⅲ	同上			
4	児童福祉施策Ⅰ	同上			
5	児童福祉施策Ⅰ	同上			
6	施設の現状と課題Ⅰ	各種児童福祉施設の現状と抱える諸問題について学ぶ			
7	施設の現状と課題Ⅱ	同上			
8	児童福祉と専門職	児童福祉分野で働く専門職の基本的要件・姿勢について学ぶ			
9	児童福祉と専門職	同上			
10	子どもの非行・犯罪	個性と環境との力動的相互関係による子どもの非行について学ぶ			
11	児童福祉ニーズと相談	ニーズの把握と相談援助活動について学ぶ			
12	援助活動	相談援助活動実施上の留意点について学ぶ			
13	児童福祉の今日的課題	現代社会における児童家庭福祉の抱える問題について学ぶ			
14	21世紀の児童家庭福祉及び総括	児童家庭福祉の潮流とこれからの児童家庭福祉について考える			
15		授業の進捗状況等都合により変更することがある。			
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書		「児童福祉論」	「新版・社会福祉学習双書」編集委員会	全社協	論Ⅰで使用教科書
参考書		「児童福祉論」	福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	
その他の資料		必要の都度指示、配布する			
【評価方法】 レポート、試験、出席状況、授業態度等総合的に評価する			【履修上の留意点】		